令和８年度　第１回「十和田湖 1000 年会議」　会議要旨

開催日時　令和８年 10 月１日（木）14：00～16：00
開催場所　十和田ビジターセンター　レクチャールーム・WEB 併用

議事次第

１　開 会

２　議 事
（１）十和田湖 1000 年会議設置要綱の改正
（２）十和田湖観光データ共有
（３）利用拠点（休屋・休平地区）マスタープランの進捗報告
（４）休屋宿舎事業の事業者公募の状況

３　その他

４　閉 会

◆会議要旨

１．開会

（開会挨拶）環境省東北環境局　東岡局長（代読：二戸統括自然保護企画官）

環境省東北環境局の東岡局長から、本会議の開催にあたり挨拶があり、同局の二戸統括が代読した。

発言者	発言内容
議長（環境省東北環境局長代理：二戸統括自然保護企画官）	・東岡局長からのあいさつを代読させていただく。 ・本日は大変お忙しい中、十和田市櫻田市長様、鹿角市笹本市長様、小坂町細越町長様、そして青森県、秋田県をはじめとする関係行政機関および地元の代表者の皆様にお集まりいただき、誠に感謝申し上げます。また、日ごろから十和田八幡平の保護管理および満喫プロジェクトの推進にご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。 ・本日は、先月就任されました笹川環境大臣による、熊対策の現地視察に急遽同行することとなり、十和田湖 1000 年会議に出席できなくなったこと、誠に申し訳ございません。本日の議長は、局長代理として二戸が務めることといたしますので、ご容赦いただきますようお願い申し上げます。 ・この十和田湖 1000 年会議は、令和 5 年に設置されて以降、十和田湖地域における滞在型高付加価値観光の推進を目指して皆様と協議を重ねた結果、昨年までに十和田湖地域の基本構想および休屋･休平地区のマスタープランの策定に至っております。 ・マスタープランでは、地域の目指すべき将来像、およびその実現へ向けた 30 の施策を決定しておりますが、これらの施策を着実に推進するため、前回の会議後には、ワーキンググループの見直し等を行い、各施策の実行体制も整えてきたところです。 ・本日は、さまざまな施策の基盤となる十和田湖の最新の観光データについて、十和田奥入瀬観光機構様からご紹介いただいたうえで、新たに設置したワーキンググループの状況や、宿泊事業の公募状況など、マスタープランの進捗状況をご報告いただきます。また、観光分野と一体的に進めるべき暮らしなりわい分野の対策は、昨年に新たな地域づくり法人が設立し、今年度は十和田市において新たな事業に着手されておりますので、こうした対策も含めて共有し、議論できればと考えております。

	・これまでの会議でも申し上げておりますが、このマスタープランの推進が、日本の宝である十和田湖の輝きを取り戻す最大のチャンスだと思っております。引き続き、環境省も全力で取り組みますので、各施策を着実に前へ進めるため、本日の会議においては、皆さまからの積極的なご意見をいただければと思います。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

議事（１）十和田湖 1000 年会議設置要綱の改正

今後の会議設置要綱及び構成員の見直し方針について、資料１に沿って事務局から説明があり、各構成員から異議がない旨が確認された。

議事（２）十和田湖観光データ共有

発言者	発言内容
議長	・ただいまの説明に関し、ご意見を伺いたい。
自然公園財団 久保田所長	・資料 P9 に「外国人宿泊者の特徴として台湾からの宿泊者が多い」とあるが、アジア圏の他国と比べて突出している要因は何か。
十和田奥入瀬観光機構 河津マーケティング戦略部長	・本調査は任意で回答いただいた調査であるため、すべての宿泊施設が回答しているわけではないという前提にご留意いただきたい。 ・データの傾向として、客室数が多い宿泊施設からの回答が影響している。こうした大規模な施設は団体客の受け入れが可能であり、台湾からのバスツアーを受け入れていることが主な要因として挙げられる。 ・また、日本全体の傾向として、台湾からの観光客は台湾にはない冬の景色を求めており、これにより東北地方の観光需要が高いことや、青森県で台湾からの直行便を強化していることも要因として考えている。
自然公園財団 久保田所長	・台湾からの直行便の影響が大きいということで理解した。個人旅行客より団体旅行客が多いということか。 ・資料 P16 の飲食の評価が相対的に低いということは、宿泊先で提供される飲食の影響が大きいのか。
十和田奥入瀬観光機構 河津マーケティング戦略部長	・個人より団体の旅行客の方が多いと認識している。 ・飲食の評価は一概には言えないが、十和田湖エリアで総じて評価が低い状況にあると考えている。
自然公園財団 久保田所長	・飲食に対する評価を上げるために、具体的に何をすべきか。

十和田奥入瀬観光機構 河津マーケティング戦略部長	・各店舗で努力することも重要であるが、地域一帯で十和田湖ならではの魅力を作っていく必要がある。 ・ヒメマスを活用したレシピの開発やプロモーション等、点ではなく面での施策展開が重要である。

議事（３）利用拠点（休屋・休平地区）マスタープランの進捗報告①（取組事項 1～3）

利用拠点（休屋・休平地区）マスタープランの進捗報告について、内容が多いため、取組事項 1~3（資料３の P1~７）までを区切って事務局から説明を行った。

発言者	発言内容
議長	・ただいまの説明（資料 P1~7）に関し、青森県、秋田県に補足いただきたい。
青森県観光交流推進部観光政策課小橋課長	（資料 P2~4 補足） ・展望台の現地視察を行ったが、すっきりとした眺望とは言い難い旨を確認した。 ・展望台の敷地外の樹木が原因であるため、林野庁や環境省と協議し、どのように伐採するか、どうすれば美しい眺望を確保できるかを検討したい。 ・中山半島園地については、看板や見晴らし台等の設備が老朽化しているという意見がある。現地確認のうえ、皆様と相談しながら、既存施設の修繕について検討を進めたい。
秋田県生活環境部自然保護課伊藤政策監・佐々木チームリーダー	（資料 P2~4 補足） ・発荷峠の展望台および休平地区のトイレの現地視察を行った。 ・発荷峠では、一部樹木が繁茂している状況を確認した。斜面が急な場所での繁茂もあり、どのように伐採すべきかを考えている。 ・景観を阻害している樹木には、道路際の立木もあり、道路敷地の樹木である場合は、まず所有者の確認をする必要がある。 ・休平地区のトイレでは、利用状況と周辺環境を確認した。令和５年に修繕工事をしているが、県ではさまざまな施設を所有しているため、優先順位を考慮し検討したい。
議長	・地元町会からは何かご質問やご意見等はあるか。
休屋町内会金村会長	・自然のものであり、手を尽くしても難しい部分もあるが、悪天候時は波が激しく、様々な悪影響を及ぼす可能性がある。可能な範囲で対策をご検討いただきたい。 ・発荷峠の隣にある紫明亭展望台は眺望の課題もそうだが、加えて熊の影響で立入が制限されている展望台があるため、利用できるように対策していただきたい。
十和田湖国立公園協会	・展望台からの眺望悪化について、一番心配しているのが滝ノ沢峠展望台である。

太田事務局長	・以前、秋田県で整備していただいたが、景観が悪く展望台として機能していない。秋田県か林野庁、いずれかとの調整が必要と思われるが、眺望を確保するための調整をお願いしたい。 ・いずれの展望台も、昔よりも眺望が悪くなっているので、訪れた人に十和田湖の美しい眺望を見てもらうために再整備を進めていただきたい。
事務局	・展望台の管理者が中心となり、対策を考えていただくということでMP（マスタープラン）の中では位置づけている。環境省でも本日のご意見を踏まえ、各展望台の管理者と今後の方針等について意見交換したい。
鹿角市 笹本市長	・樹木に関しては、今伐採したとしても、また何十年か後には成長し、何度も対応が必要になってくるものである。その都度対応を考えるのではなく、一定の眺望を確保するための仕組みを作れないものか。
事務局	・各国立公園でも課題になっているが、どの程度の眺望悪化まで許容するか等、先進事例を参考にしながら取組を進めていきたい。

議事（３）利用拠点（休屋・休平地区）マスタープランの進捗報告②（取組事項 4～5）

利用拠点（休屋・休平地区）マスタープランの進捗報告について、内容が多いため、取組事項 4~5（資料 3 の P8~15）までを区切って事務局から説明を行った。

発言者	発言内容
議長	・ただいまの説明（資料 P8~15）に関し、（一社）秋田犬ツーリズム、（株）かづの観光物産公社に補足いただきたい。
秋田犬ツーリズム 櫻井事務局長	（資料 P14 補足） ・YouTube チャンネル「スーツ旅行／Suit Travel」（チャンネル登録者数 120 万人）にて、十和田湖のプロモーション企画を行った。 ・旅館等とのタイアップ広告で十和田の食や楽しみ方を紹介し、公開から 2 ヶ月程度で 21 万回の視聴があった。一定のインパクトはあったと感じている。
かづの観光物産公社 木村統括本部長	（資料 P15 補足） ・（株）かづの観光物産公社では十和田八幡平エリアとして様々なプロモーションを実施してきた。かづの旅応援クーポンを実施、昨年からは小坂町と連携し、Instagram での PR も強化している。 ・旅行会社のプロモーション強化等、十和田湖畔への誘致に力を入れている。十和田湖ならでは、といったところでは、十和田神社やヒメマスを活用した体験コンテンツの整理が課題になってくる。 ・認知度については、中高年が圧倒的に多く東北の方に特化しているので、全国に展開していける仕組みづくりをしていきたい。 ・旅行業を取得しているため、西湖畔の散策やプリンスホテルのランチ等を企画しているが、そういった独自の着地型商品を発信し誘致に努めたい。 ・単独で海外セールスも企画しているので、そういった活動も進めていきたい。
議長	・他にご意見等はあるか。 ・全体的な観光についてということで、秋田県観光戦略課より施策の助言等があればご意見をいただきたい。
秋田県観光文化スポーツ部観光戦略課	・自然保護課からも話があったとおり、秋田県側の課題について、各行政間で連携しながら解決に向け取り組んでいきたい。

高橋チームリーダー	
十和田湖国立公園協会生出常務理事	・十和田湖における一番の課題は冬の観光である。温泉やイベント開催等、様々な取組みをしてきたが、中途半端だったのではないか。 ・通年での観光振興のためには、思い切った冬の観光施策を検討していくべきだと考えている。
議長	・資料 P15 でプロモーション強化に関わる内容が整理されているが、この状況について、鹿角市からコメントをお願いしたい。
鹿角市 笹本市長	・体験型コンテンツを整備していくことが重要だと認識しており、宿泊キャンペーンにおいて、独自のクーポン発行なども行っている。 ・クーポン第 1 弾は 5,000 セットに対し 24,214 件の応募があり、約 4.8 倍の応募倍率となった。第 2 弾では、4,000 セットに対し 23,000 セットの応募があり、約 5.8 倍の応募倍率となった。 ・まずはオフシーズンに、観光に来ていただくことが重要である。
議長	・先ほど国立公園協会から冬の利用についてのご意見があったが、鹿角市の取組みについては参考になるのではないか。

議事（３）利用拠点（休屋・休平地区）マスタープランの進捗報告③（取組事項 6～7）

利用拠点（休屋・休平地区）マスタープランの進捗報告について、内容が多いため、取組事項 6~7（資料 3 の P16~22）までを区切って事務局から説明を行った。

発言者	発言内容
議長	・ただいまの説明（資料 P16~22）に関し、（一社）碧のしずくと灯り、（一財）自然公園財団 十和田支部に補足いただきたい。
碧のしずくと灯り 佐々木代表理事	（資料 P16~18 補足） ・（一社）碧のしずくと灯りは、令和 7 年 12 月に設立し、構成メンバーは十和田市の市街地で事業を営んでいる事業者である。 ・十和田湖地域の持続可能な環境保全と、暮らし･産業の発展を実現するため、地域の課題に主体的に向き合い、行政や地域と共に新たな価値と事業を創出し、未来につながる豊かな地域づくりを推進することを目的としている。 ・継続した課題解決とマスタープランの実現に向けて活動していきたい。 ・若者が活躍できる地域づくりや、安心して生活できる基盤づくりに主体的に取り組んでいきたいと考えている。
自然公園財団 久保田所長	（資料 P19~22 補足） ・昨年度の冬に、休屋北駐車場に自動料金ゲートを設置する実証事業のお手伝いをさせていただいた。 ・昨年度の実証事業では、冬季期間の駐車場管理経費と駐車場収入のバランスが悪かった。 ・今年度も休屋北駐車場の冬季運用の実証事業を実施予定であるため、改善点を見出し、黒字化していきたい。 ・将来的な駐車料金の値上げに関しては、全国の自然公園財団で運営している駐車場の、23~24 支部中、8 支部で値上げとなっているため、十和田地区にも今後情報を共有していきたい。
議長	・他にご意見等はあるか。
小坂町 細越町長	・資料 P18 に関連して、小坂町でも空き家の調査をしており、9 月 30 日に調査が終わったので、これから集計し、改めて情報提供したい。
議長	・「くらし･なりわい」に関して、地元の方とも関係性が深いと思われるが、休屋町内会、大川岱自治会からの質問等はないか。

大川岱自治会 鈴木会長	・資料 P6 の主動線石畳化について、ベビーカーや車いすの利用者もいるが、石畳化した場合の利便性等は、実際に石畳を敷くまで確認できないのか。 ・また、冬の除雪時に石畳が壊れてしまうことはないか。石畳は、少しでもひびが入った場合、そこから侵入した水が凍結し、破損する懸念がある。
事務局	・主動線の石畳化はまだ検討段階であり、実施が確定しているわけではない。 ・除雪への影響や石畳の構造などについては、除雪事業者やアドバイザーにもヒアリングを行っている。 ・今後、計画が進む中で、地元の方の意見を聞きながら進めるべきだと考えている。
議長	・保護と利用の好循環について、奥入瀬ビジョンとの関連で、青森みちのく銀行に意見を伺いたい。
青森みちのく銀行 夏堀チーフコンサルタント	（WEB チャットにてコメント） ・駐車場料金の設計などについては、奥入瀬渓流での徴収スキームと調整する必要があると認識している。

議事（４）休屋宿舎事業の事業者公募の状況

発言者	発言内容
議長	・ただいまの説明に関し、ご意見・ご指摘がある方は伺いたい。
十和田湖ふるさと活性化公社 佐々木理事長	・通年で営業できるかどうかが、宿泊事業者の一番の懸念事項である。 ・冬場のアクセスが課題であり、そこが解決できれば興味を示す事業者が増えるのではないかと考えている。
事務局	・事業者との対話の中でも、交通等の課題解決に資する取組があればよいという意見が出ている。まずはこうした課題解決に貢献できるような事業提案を待ちたい。

３　その他

発言者	発言内容
十和田湖国立公園協会 太田事務局長	・先ほどの資料３の P13 の取組みに関して、十和田湖湖上遊覧一周ツアーを、国立公園協会主催で実施することになった。案内を持ってきたので配布させていただきたい。
議長	・議事全体を通して、他にご意見はないようなので、以上をもって本日の議事を終了する。

４　閉会

（閉会挨拶）十和田市　櫻田市長

十和田市の櫻田市長から、本会議の閉会のご挨拶をいただいた。

発言者	発言内容
十和田市 櫻田市長	・今年度は、昨年９月の本会議で策定した、十和田八幡平国立公園利用拠点（休屋･休平地区）の魅力向上のためのマスタープランに基づき、関係機関が具体的な検討を実施していく最初の年となった。 ・本日の会議では環境省をはじめ、各実施主体の皆様から実施状況のご報告をいただいた。宿泊事業者の公募開始、市道の石畳化の検討、また、地域課題の解決を担う組織の自立化支援など優先すべき事項を中心に、着実に前進していることを確認することができた。 ・なかでも、宿泊事業者の公募については心配していたところであり、事務局に正式な申し込みがあったという話を伺い、十和田湖の魅力に関心を持っていただけた事業者がいるということで嬉しく思うとともに、今後の具体的な企画提案書等を大変楽しみにしている。 ・こうした取り組みが進む中で、当市でも十和田湖に関連する様々な事業を進めており、例えば、今年度は屋内遊戯施設、雨の日でも風の日でも雪の日でも遊べる遊戯施設を、市民交流プラザ「トワーレ」で改修し、整備するという取組みを進めている。その遊戯施設のコンセプトが、「十和田湖伝説をテーマにした、体験型の遊び場」である。ご利用いただいたお子様にも保護者の皆様にも、遊びを通して十和田湖の物語に親しんで、十和田湖に行ってみたいと思っていただけるきっかけになればと期待している。 ・半年に一度開催される本会議だが、施策の進捗を確認しながら、関係機関の皆様が意見を交わし、そしてこの休屋･休平地区が持続可能で魅力溢れる利用拠点となることを目指して参りたいと考えているので、今後とも皆様のお力添えをお願いしたい。 ・結びとして、地域の活性化、また持続性の向上に向け、引き続き皆様方から改めてご支援とご協力のお願いを申し上げ、挨拶とさせていただく。

（以上）